

ハーネス用 つい落防止具

取扱説明書



このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。
本製品は、昇降時に親綱と併用することで作業者の墜落を防止する製品です。この取扱説明書は、本製品の使いかたと使用上の注意事項について記載しています。ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、事故が起こらないよう、内容にしたがって正しくお使いください。
また、お読みになった後もこの取扱説明書をすぐに取り出せるところへ大切に保管していただき、紛失された場合は弊社に請求してください。



● 「ハーネス用つい落防止具」は、正しく使われていないと墜落の危険があります。

● この取扱説明書に書かれた使いかた以外の使用方法や注意事項を守らずに、事故を起こされた場合、責任を負いかねますのでご了承ください。

※本製品を装着するハーネス、親綱およびはしごに添付されている取扱説明書も必ずお読みください。

株式会社 **ナカオ**

〒750-0322 山口県下関市菊川町檜崎1278-1

TEL:083-287-1231 FAX:083-287-1201

お客様相談窓口（総務室） TEL:083-287-1231

<http://www.k-nakao.co.jp/>

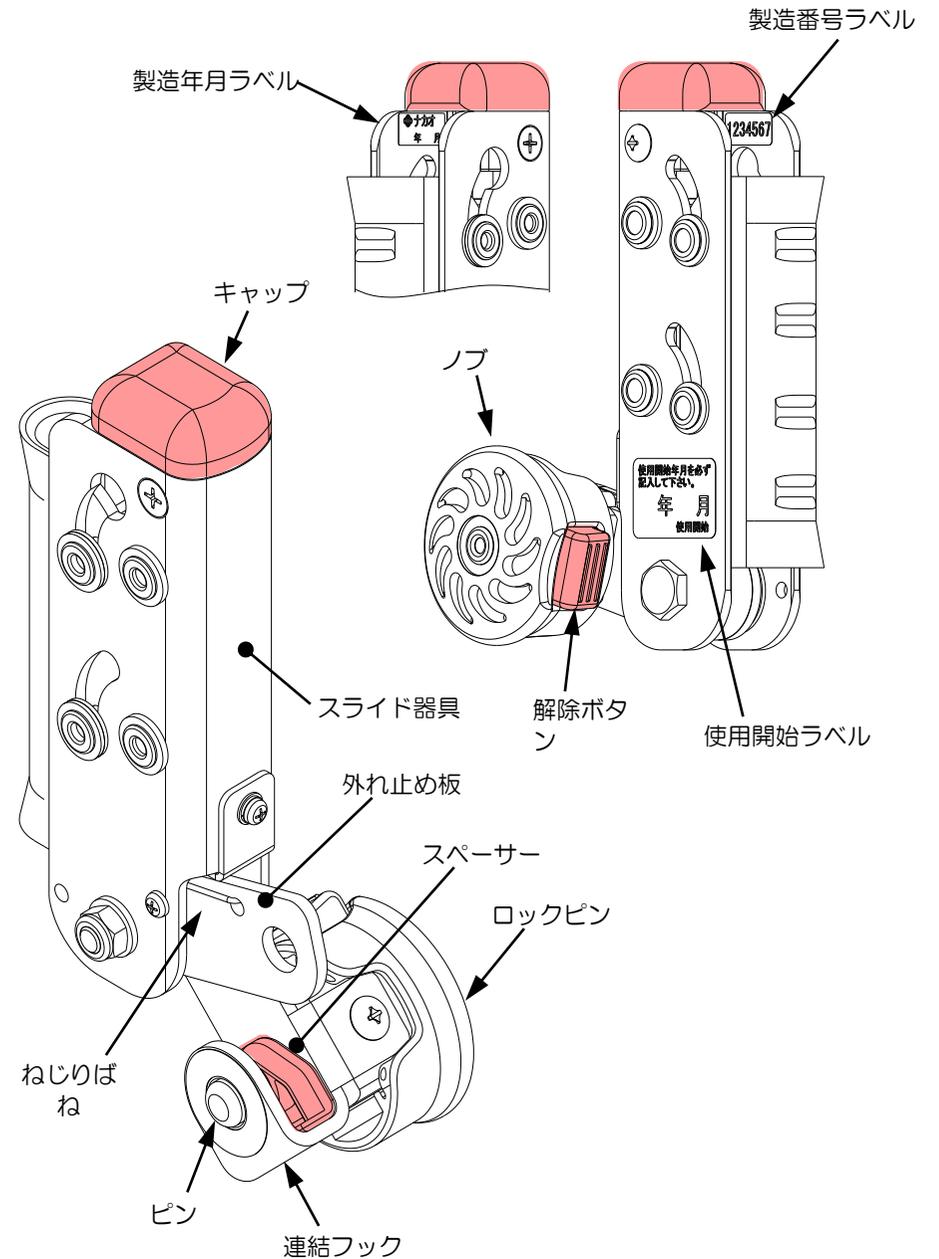
※改良等のため予告なく仕様を変更することがあります。

この取扱説明書の無断転用を禁じます。

もくじ

各部のなまえ	2
表示マークについて	3
安全のために、必ず守っていただきたいこと	4
1. 使用条件について	4
2. ご使用になる前に	5
3. ご使用時の注意	5
ご使用前の点検（日常点検）	7
1. 目で見て点検	7
2. 作動の点検	7
使い方	8
1. 連結フックの操作のしかた	8
2. ハーネスとの装着のしかた	9
3. 昇降のしかた	10
使用後のお手入れと保管のしかた	11
1. お手入れのしかた	11
2. 保管のしかた	11
故障かな？と思ったら（不調診断）	12
注油箇所および方法	13
最大耐用年数について	14

各部のなまえ



表示マークについて

取扱説明書に記載されている⚠マーク付の説明および図記号は、安全上とくに重要な項目ですから、必ずお守りください。

 危険	記載されている内容を守らなければ、死亡や重大な事故が生じる危険が極めて大きいことを示しています。
---	--

 警告	記載されている内容を守らなければ、死亡や重大な事故が生じる危険があることを示しています。
---	--

 注意	記載されている内容を守らなければ、けがや製品が破損するおそれのあることを示しています。
---	---

安全のために、必ず守っていただきたいこと

ここに記載されている注意事項を守らなければ、死亡や重大な事故、製品の破損が生じるおそれがあります。

1. 使用条件について

⚠ 危険 本製品の最大使用質量は100kgです。

使用者の体重と装備品の合計が最大使用質量以下で使用してください。本製品に接続するハーネスおよびはしごの最大使用質量が異なる場合は、**小さい方の最大使用質量以下**で使用してください。

⚠ 危険 本製品は、胸部D環付きハーネス専用です。胸ベルト型墜落制止用器具での使用はできません。



※ 使用できるハーネスは、胸部D環の内寸が25mm以上になります。(上図)
(D環の形状によっては取付けできない場合があります。)

⚠ 危険 一度でも衝撃荷重が加わったものは、外観に異常がない場合でも使用せずに廃棄してください。

⚠ 危険 分解・組立、改造をしないでください。

⚠ 警告 墜落防止以外の目的で使用しないでください。

本製品は、昇降時の墜落防止を目的に作られたものです。使いかたを誤ったり、用途以外の使いかたをした場合、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告 弊社の親綱以外は使用しないでください。

弊社以外の親綱を使用した場合、墜落制止機能が正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告 落下距離が長くなるため、墜落制止用器具のランヤードと接続して使用しないでください。

⚠ 警告 耐用年数を確認してください。

使用頻度や使用環境、保管方法によって異なりますが、使用開始から7年を目安として新品と交換してください。詳しくは「最大耐用年数について」(14ページ)をご覧ください。

安全のために、必ず守っていただきたいこと

2. ご使用になる前に

警告 ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解してください。
また、本製品を人に貸すときは、この取扱説明書も併せて貸し出してください。

警告 ご使用前に必ず「ご使用前の点検」(7ページ)を行い、各部に異常のないことを確認してください。

異常のあるときは、処置のしかたにしたがい部品の交換や修理を行ってから使用してください。

警告 新しい製品を使用する前に、使用開始年月ラベルに必ず記入してください。

使用開始年月を必ず
記入してください。

年 月
使用開始

警告 耐用年数を経過している場合は廃棄し、新品と交換してください。
耐用年数以内でも一度でも衝撃を受けた製品は、外観に異常が無くても廃棄してください。

警告 ハーネス、親綱およびはしごも同様に使用前に点検してください。

3. ご使用時の注意

危険 親綱は水分を含むと電気を通しやすくなるため、雨天時は感電に注意してください。

警告 本製品が親綱の取付位置より上にならないようにしてください。
また、親綱がたるんだ状態で使用しないでください。

落下距離が長くなり、墜落制止時の衝撃荷重が大きくなるおそれがあります。



注意 体重を預けたりぶら下がったりしないでください。



安全のために、必ず守っていただきたいこと

警告 連結フックはハーネスの胸部D環に直接接続してください。

警告 火気・薬品・油に触れるような場所では使用しないでください。

警告 凍結時は作動を確認しながら使用してください。

警告 飛び降りたり、急激な動作をしないでください。

ロックが作動したはずみで身体が不安定になり、墜落のおそれがあります。

警告 一本の親綱を複数人で使用しないでください。

他の使用者が墜落したときに友引き状態になり、引張られて他の使用者も同時に墜落するおそれがあります。

警告 親綱の下端部での墜落に注意してください。

親綱の伸びにより落下距離が長くなり、下方の構造物や地面に衝突するおそれがあります。

警告 水平方向で使用しないでください。

水平親綱での使用はできません。

警告 使用中に異常があった場合は、直ちに使用を中止して再点検を行ってください。

注意 作業に適した服装で使ってください。

作業を行う際は、ヘルメット・安全靴等の保護具を着用し、正しい服装(作業服)で作業を行ってください。

注意 キャップやノブ等の樹脂部品に塗料やその溶剤が付着した場合はすぐに拭き取ってください。

ノブが変形するとロックピンの操作ができなくなるおそれがあります。

注意 丁寧に扱ってください。

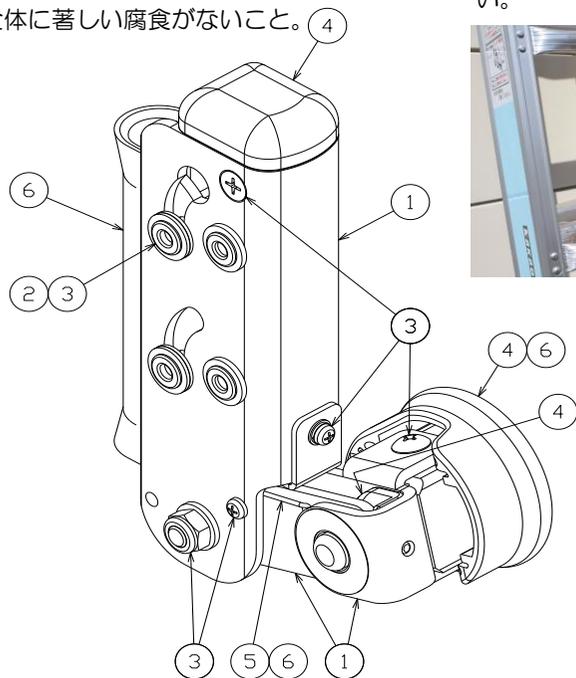
投げたり、引きずったりしないでください。故障の原因になります。

ご使用前の点検（日常点検）

本製品をお使いになる前に必ず下記の点検を行い、異常のないことを確認してください。
点検の結果、異常がある場合は正しい処置をしてから使用してください。

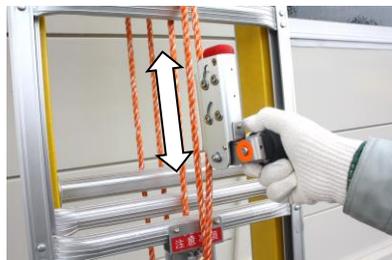
1. 目で見て点検

- ① スライド器具、連結フック、外れ止め板に変形および深さ1 mm以上のキズがないこと。
- ② リバットの頭およびカシメ部が1 mm以上摩耗したもの。
- ③ ねじ、リバットのゆるみがないこと。
- ④ キャップ、ノブ、解除ボタン、スペーサーに割れ、欠け、変形がないこと。
- ⑤ ねじりばねの折損、変形がないこと。
- ⑥ 可動部やねじりばねに塗料等が付着していないこと。
- ⑦ 全体に著しい腐食がないこと。



2. 作動の点検

- ① ノブを持ち、昇降する程度の速さで上下にスムーズに動くこと。
(速く動かすとロックが作動します。)
- ② ノブを持ち、下に強く引いてスライド器具の停止（ロック）が作動することを2回以上確認してください。
停止しない場合は使用しないでください。



使い方

1. 連結フックの操作のしかた

- ① ロックピンのノブの上側の切欠き部に親指を、下側の切欠き部に中指を掛け、人さし指で解除ボタンを押さえます。
- ② 解除ボタンを押さえたままノブを引き、そのまま下側に回して連結フックを開きます。



※ 連結フックを閉じるときは、解除ボタンを押さえたままノブを引いてロックピンを解除し、そのまま上側に回して外れ止め板が連結フックに収納されたらノブから手を離します。



使い方

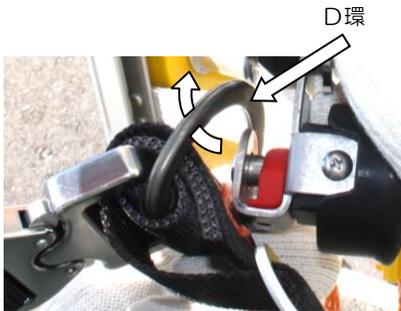
2. ハーネスとの装着のしかた

手順を厳守しないと死亡や重大な事故、製品の破損が生じるおそれがあります。

- ① 連結フックを開きます。

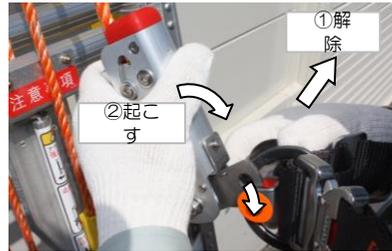


- ② 連結フックを胸部D環に通し、D環内側にスペーサーを差し込みます。

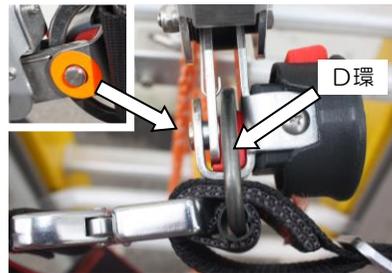


スペーサー

- ③ ノブを引いてロックピンを解除したままスライド器具を手前に引き起こし、外れ止め板が連結フックに収納されたらノブから手を離します。



- ④ D環が正しい位置にあり、ロックピンのピンが飛び出ていることを確認します。(写真左上)



- ※ ロックピンが正常にロックされていないと、不完全ロックを示す赤色のラベルがノブの切欠き部に表示されます。



⚠ 警告 ハーネスとの着脱は、必ず地上で行ってください。

使い方

3. 昇降のしかた

<昇るとき>

- ① 昇るときは、本製品は体の動きにしたがって親綱上を引き上げられます。本製品と親綱が平行になるようにするとスムーズに昇ることができます。



<降りるとき>

- ② 降りるときは、本製品は自重により下降しますので、それに合わせて降りてください。



- ※ 途中でロックが作動した場合は、一度昇ってロックを解除してから再度降りてください。

※ 降りるときに、急な動作をしたり、スライド器具と親綱の角度が大きくなったりすると、摩擦や抵抗によりロックが作動することがありますので、急な動作を避け、できるだけスライド器具と親綱が平行になるようにしてゆっくり降りてください。



使用後のお手入れと保管のしかた

1. お手入れのしかた

本製品にとって泥、汚水、セメント、石灰、海水は大敵です。いつもきれいにしておいてください。

また、保守は定期的および必要に応じて行ってください。

〈掃除のしかた〉

- ① 汚れはぬるま湯を使って洗い、落ちにくい場合は中性洗剤を使って洗ってください。その後乾いた布などで拭き取り、風通しの良い場所で乾燥させてください。
- ② 塗料やその溶剤が付着した場合は、布などですぐに拭き取ってください。

- ③ 油系の汚れは、クリーナーや洗剤で落とした後、クリーナーや洗剤が残らないように布などできれいに拭き取ってください。

⚠ 注意 腐食の原因になりますので、クリーナーや洗剤をつけたまま放置しないでください。

- ④ 雨、水などに濡れた場合は乾いた布で拭き取り、さび止めの油を薄く塗ってください。

- ⑤ 摺動部、回転部は定期的に注油してください。（13ページ参照）

- ⑥ 砂、泥などが付着している場合は、作動不良の原因になりますので取り除いてください。

2. 保管のしかた

- ① 雨や直射日光の当たらない風通しの良い乾燥した場所を選んで、保管してください。

- ② 本製品が濡れている時は、十分に乾燥させてから保管してください。

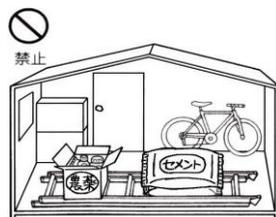
- ③ 火気、放熱体などの近くに保管しないでください。

- ④ ちりやほこりの少ない場所に保管してください。

- ⑤ 小動物の入らない場所へ保管してください。

⚠ 注意 保管中は、本製品の上に物を置かないでください。変形の原因になります。

⚠ 注意 農薬やセメント、石灰の近くに本製品を置きますと、化学反応を起して腐食の原因になりますので絶対に置かないでください。



故障かな?と思ったら(不調診断)

〈現象〉スライド器具が動かない

点検する箇所	処置のしかた
スライド器具が変形していませんか。	変形したものは使わずに廃棄してください。
スライド器具の中に泥、砂、ペンキ、モルタル、小石が付着していませんか。	異物を完全に取り除き、それでも動きが悪い場合は廃棄してください。

〈現象〉連結フックが動かない

点検する箇所	処置のしかた
連結フック、外れ止め板が変形していませんか。	変形したものは使わずに廃棄してください。
スライド器具の中に泥、砂、ペンキ、モルタル、小石が付着していませんか。	異物を完全に取り除き、それでも動きが悪い場合は廃棄してください。

〈現象〉ロックピンが動かない

点検する箇所	処置のしかた
ノブや解除ボタンが変形していませんか。	変形している場合は交換してください。
ノブの中に間に泥、砂、ペンキ、モルタル、小石が付着していませんか。	異物を完全に取り除き、それでも動きが悪い場合は交換してください。

〈現象〉外れ止め板が元の位置に復帰しない

点検する箇所	処置のしかた
ねじりばねが折損していませんか。	折損している場合は廃棄してください。

⚠ 注意 ねじりばねが折損した状態では、正常に降りることができません。

※廃棄方法については、各自治体にお問い合わせください。

注油箇所および方法

性能を維持するため定期的に注油を行ってください。

※作業するときは汚れてもいい服装で行ってください。

1. 注油に必要なもの

- ①グリススプレー
- ②ウエス



2. 注油準備

ロックピンを解除して外れ止め板上で戻してハーフロックの状態にします。



3. 注油箇所

①ピン

ノブの下側の切欠き部からピンに塗布します。



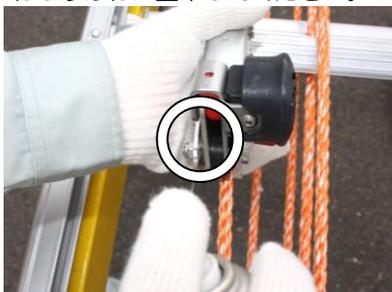
②解除ボタン

解除ボタン裏面に塗布します。



③ねじりばね

ねじりばねに塗布してください。



※ グリスを塗布するときは、親綱やスライド器具内部のツメにグリスが付着しないように十分注意してください。親綱やツメにグリスが付着すると、墜落制止時に滑り重大な事故につながるおそれがあります。



最大耐用年数について

本製品の交換時期の目安は独立行政法人 産業安全研究所 著書

「産業安全研究所技術指針」NIIS-TR-NO.37（2004）「安全带使用指針」内「廃棄基準」に準じています。

- (イ) 使用頻度が少なく、かつ、使用条件が過酷でない職種については最大耐用年数を7年までとする。
- (ロ) 上記耐用年数限度内であっても、各種の点検により不合格のものは直ちに廃棄する。
(疑わしいものは、欠陥・不良とみなす。)

これらに準じて、本製品の最大耐用年数を7年と設定しています。